

報告

エゾシカ研究委員会
平成24年度～平成27年度活動報告
～委員会活動の終了にあたり～

江頭 優

1. 活動の目的

(1) 目的

北海道においてエゾシカの農林被害が急増しており、北海道でもエゾシカ対策を実施されているところですが、有効に機能しているとは言えません。これに対し、エゾシカを北海道固有の地域資源と位置づけ、これを活用した養鹿産業を育成し中山間地の活性化に繋げることが、エゾシカ被害軽減の対策に寄与することから、これらのシステム・技術開発についての研究を目的としています。

(2) 経緯

前身である地域産業研究会エゾシカ分科会では、農林被害で害獣として扱われているエゾシカを、北海道固有の地域資源と位置づけ、家畜化して養鹿産業として育て上げ、中山間地の活性化に繋げることを目指した調査・検討を平成11年(1999年)から開始しました。さまざまな有識者との情報交換や勉強会、ニュージーランドでの成功事例の視察を踏まえ、北海道における養鹿産業の実現可能性など、これらの研究成果を平成16年(2004年)4月に提言集「エゾシカ飼うべ」として発刊しました。

エゾシカ研究委員会では、エゾシカを資源とする地域産業の創出、ならびにエゾシカ被害軽減対策として、エゾシカ肉の処理事業者が正常な経営を継続するための課題と対策を主に研究対象としました。

2. 代表・幹事長・構成員

(1) 代表

五十嵐 敏彦(総合技術監理・建設・応用理学)

(2) 幹事長

細川 康司(総合技術監理・建設)

(3) 構成員

①構成員(当初)

阿部 任(機械)、五十嵐敏彦(建設・応理)、伊藤恒雄(農業)、伊藤 昌勝(建設)、今井 淳一(建設)、川村 政良(建設・総監)、鎌田 貢次(農業)、須川清一(農業)、谷口 健雄(農業・総監)、土田 好起(建設)、中村 一也(機械)、船越 元(農業)、細川康司(建設・総監)、岩橋 恩(14名)

②構成員(平成27年4月時点)

阿部 任(機械)、荒金 章次(農業)、五十嵐敏彦(建設・応理)、伊槻 康成(農業)、伊藤 恒夫(農業)、伊藤 昌勝(建設)、今井 淳一(建設)、江頭 優(建設・環境)、門脇 吉紀(下水道)、鎌田 貢次(農業)、川村 政良(建設)、榊 哲雄(建設)、須川 清一(農業)、高嶋 遥(技術士補・建設)、高橋 美香(森林)、高森 篤志(建設)、谷川 靖司(建設)、谷口 健雄(農業)、土田 好起(建設)、中村 一也(機械)、西尾 耕一(建設)、沼田 光弘(農業)、羽賀 豊(建設)、檜澤 肇(建設・環境)、船越 元(農業・総監)、細川 康司(建設・総監)、安井 雄祐(機械)、山田 浩行(建設・環境・森林)、桜庭 哲広(外部専門家)、片山 英夫(外部専門家) (30名)

3. これまでの活動概要

(1) 平成24年度

H24.4.4(水) 札幌東商業高校 マーケティング部エゾシカ問題に関する出前授業(図-1)

エゾシカに関する基本的事項について(五十嵐技術士)、エゾシカ肉商品に関する現状と課題(細川技術士)



図-1 札幌東商業高校 出前授業(H24.4)

H24.4.18(水) 第1回 研究会定例会
 H24.4.25(水)～H24.4.27(金) 春の視察
 ①斜里町真鯉の“知床エゾシカファーム”
 ②斜里町ウトロの“知床自然センター”
 コンサルタンツ北海道(H24.10)活動レポート
 「知床・斜里 春の現地視察報告」に掲載

H24.6.29(金) 第2回 研究会定例会
 養鹿肉、ハンター肉の官能試験
 H24.9.12(水) 第3回 研究会定例会
 H24.11.9(金) 第4回 研究会定例会
 沼田技術士からの話題提供「エゾシカ捕獲の現場
 から ～ハンターによる視点～」

H24.12.14(金)～15(土) 秋の視察(図-2)
 ①斜里町ウトロの固定罠、移動罠設置状況
 ②斜里町真鯉の“知床エゾシカファーム”の屠殺・
 解体・枝肉処理状況(図-3)

H25.2.6(水) 第5回 研究会定例会： 外部講
 師による勉強会

- ・北海道環境生活部環境局エゾシカ対策室 竹澤
 主幹から北海道におけるエゾシカの有効活用に
 ついて、さまざまな取り組み事例の話題提供。
 - ・知床エゾシカファーム 富田社長から、エゾシ
 カ事業に関する現状についての話題提供。
- コンサルタンツ北海道(H25.9)活動レポート「外
 部講師を招いた勉強会の報告」に掲載

(2) 平成25年度

H25.4.25(木) 第1回研究会
 H25.5.29(水) 春の現地視察会(5/28～29)、
 知床エゾシカファーム



図-2 知床エゾシカファーム視察：養鹿(H24.12)



図-3 知床エゾシカファーム視察：食肉加工(H24.12)



図-4 エゾシカ食肉官能試験(H25.10) エゾシカ肩ロー
 ス肉のスモークとレバームースのサラダ仕立て

H25.8.21(水) 第2回研究会
 H25.10.22(火) 第3回研究会 エゾシカ肉料理
 の試食による食肉官能試験(図-4)

調理人からのエゾシカ肉に対する聞き取り調査
アンケート調査(エゾシカ肉の競争力の有無)
司厨士協会委員への当会の紹介)
KKR ホテル札幌レストランマイヨールの大江総
料理長への主な聞き取り内容
『エゾシカ肉は、5、6年前まではプロの料理人でも「固い」というイメージがあったが、今では十分魅力的な食材であり、特にフレンチやイタリアン、中華などに適している。養鹿施設のエゾシカ肉は、ハンターが捕獲した肉に比べて繊細な味で、様々な料理に使える。エゾシカ肉は、低カロリーで鉄分が多いことがアピールポイントになる。』

H26.1.17(金) 第4回研究会

(3) 平成26年度

H26.5.30(金) 第1回定例会 職業能力開発
大学校との連携および捕獲罠について

H26.6.28(土) 現地視察会、知床エゾシカファーム、
移動式捕獲罠の提案・製作にかかわる現状調査。
参加者 5名(会員1名 職業能力開発大学校4名)

北海道職業能力開発大学校との共同研究として「エゾシカ囲いワナの開発」に取り組む。

『追込み要員の省力化のため、追込み部を円形の
囲い部の中に入れ、上から見たときに「ホイッスル」
の形になるデザインを考案。』

H26.8.28(木) 第2回定例会

捕獲罠作成の中間報告

勉強会：「地域資源付加価値創造の取組事例紹介
(ガゴメ昆布)」講師：布村重樹(技術士・株式会社ノース
技研 代表取締役)

H26.11.28(金) 第3回定例会

①北海道職業能力開発大学校と移動式捕獲罠の共同
研究報告 安井技術士、職業訓練大学校

②エゾシカ肉の官能試験および料理人との意見交換
官能試験テーマ「オス肉とメス肉の比較試験」
(図-5)

H27.2.27(金) 第4回定例会

「コープさっぽろにおけるエゾシカ肉販売事業の
現状とこれから」講師：コープさっぽろ生鮮本部
畜産部バイヤー 奈須野 貴大氏

コンサルタンツ北海道(H27.5)活動レポート
「コープさっぽろのエゾシカ肉への取組」に掲載

『エゾシカは、野生動物であるため家畜と異なり、
法的根拠による検査管理の対象外である。エゾシカ
肉をどのようにしたら安全・安心に供給できるか
コープさっぽろのルールを作った。現在は、10店
舗で1週間に1店舗あたり1頭。需要は前年比3
倍に伸びているものの、既にコープさっぽろの基準
に沿った鹿肉の供給が量的に限界であり、これ以上
の販売拡大が難しい。』



図-5 エゾシカ肉官能試験(H26.11) エゾシカ・ばら
肉の柔らかさ煮 ブルゴーニュ風(赤ワインソース)

(4) 平成27年度

H27.5.19(火) 第1回定例会

コンサルタンツ北海道(H27.5) 報告「エゾシカ
囲いワナの開発」に掲載(図-6、図-7)

H27.8.28(金) 第2回定例会 次の書籍作成計
画他

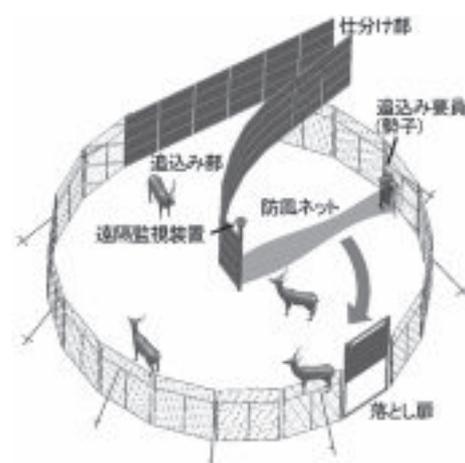


図-6 開発したワナの概要

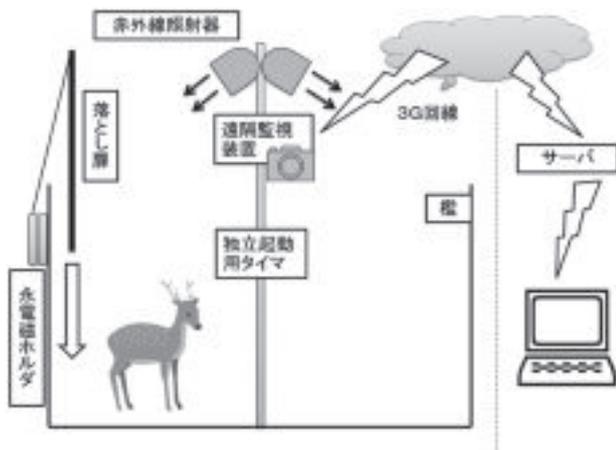


図-7 コンサルタンツ北海道(H27.5)活動レポート

H27.11.13(金) 秋の視察

職能大との開発により昨年から設置している囲いワナの状況および調整・不具合修理。インターネット回線を通して遠隔操作でワナ内に入った鹿を閉じ込めるため扉を落として閉じる機能修正。

H27.11.27(金) 第3回定例会 官能試験他、参加者43名：エゾシカ研究委員会委員19名。委員以外の技術士12名。他12名。KKRホテル札幌2F レストラン マイヨール

内容：(株)知床エゾシカファームの経緯と取組について説明、今回の官能試験の主旨(未利用部位)説明。

H28.3.12(土) 第4回定例会 来年度計画および「(仮)エゾシカ飼うべ Ver.2」出版における対応

(5) ワナ：平成27年冬～平成28年春

平成27年冬～平成28年春の狩猟シーズンの最初の収穫は、H27.12.7(月)インターネット遠隔操作で扉を閉じて5頭(オス1頭 メス3頭 仔1頭)のエゾシカを生け捕りにすることに成功。防風ネットを利用した追い込み作業も成功。

4. 平成28年度と今後

(1) 平成28年度以降

当研究委員会はこれまで4年間実施してきた主たる研究活動は、H27年度で終了し、H28年度以降はこれまでの研究内容を(仮称)「エゾシカ喰うべ」として冊子の出版に向けた執筆(取材)活動を実施しています。

初版の発行から年月が経ち外部環境の変化とともに

にエゾシカ肉の有効活用についてビジネス上の視点から課題をとりあげ、それらに対する当研究委員会の提言を掲載予定です。

(2) エゾシカ肉人気を一過性に終わらせないために

現在、エゾシカ肉は国内で人気商品になってきており、養鹿によるエゾシカ肉が拡大しつつあります。しかし、安全・高品質のエゾシカ肉は不足しています。コープさっぽろでも全道108店舗のうちわずか10店舗で週1回仕入だけの生肉販売が現実です。現在、1年間に10万頭を超えるエゾシカが駆除されたりハンターにより狩猟されたりしています。しかし、生体捕獲し適正処理(北海道HACCP、菌検査、トレーサビリティ等)された、安全・高品質なエゾシカ肉は約1割の1万頭に過ぎず供給不足なのです。エゾシカは、従来からの捕獲地である阿寒・知床等から道内各地に拡散しており、広域の捕獲・輸送体制の確立が必要とされています。

今後、北海道職業能力開発大学校との共同研究にて開発したワナも今後の活用拡大・改良を進めていきたいと考えています。さらに、安定供給のためには、家畜化についても研究を進めていく必要があります。

(3) エゾシカとの持続的な関係の構築

当委員会の基本思想は、エゾシカ被害への対策・個体数調整といった緊急対策的視点だけではなく、エゾシカとの持続的な関係を構築しようという視点から、エゾシカを北海道固有の地域資源と位置づけ、養鹿産業を育成し中山間地の活性化に繋げるということでした。新刊本の出版をもってエゾシカ研究委員会としての活動は終了しますが、当委員会の基本思想は、各メンバーの活動に引き継がれます。さらに、出版物を通して多くの方に拡大されていくことを期待しています。

江頭 優 (えがしら ゆたか)
技術士(建設/環境/総合技術監理部門)
エゾシカ研究委員会 幹事
エヌエス環境株式会社

